（2027 年度）総合大雄会病院麻酔科専門研修プログラム

はじめに

本プログラムの主要施設を抱く愛知県一宮市は、名古屋への往還に便あり、住まうに佳き地として世に知られながら、そこに身を置き研鑽を重ねる麻酔科医の数は、なお豊かとは言い難いものがあります。

本プログラムは「地域密着型専門研修プログラム」として尾張の地に根付く麻酔科医の育成を旨としており、大学病院での研修を必須とはしておりません。一宮市内の関連施設で研修を完遂することも可能であり、転居などの煩瑣な手続きを最小限にとどめることができます。

その一方で、大学病院にて得られる学びは市井の病院では容易に代え難いものであり、医育機関での研修を希望する方には、近隣の大学病院を積極的に選び取っていただきたいと考えております。

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

①　麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民（当プログラムにおいては特に地域に皆様）の健康・福祉の増進に貢献するものです。

②　麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能となるように管理する、生体管理医学です。麻酔科専門医は、すべての国民が安心して手術を受けられるよう、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストです。また、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の領域においても、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担っています。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

- 総合大雄会病院麻酔科専門研修プログラム（以下、本プログラム）は医療法人大雄会総合大雄会病院（以下、総合大雄会病院）を専門研修基幹施設とした病院群で運営される麻酔科専門研修プログラムです。
- 本プログラムでは、麻酔科専門医を志す専攻医に、日本専門医機構の定める整備指針に沿った麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる研修機会を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成することを目的としています。
- 麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは日本麻酔科学会ホームページの麻酔科専攻医研修マニュアルに記されています（https://anesth.or.jp/files/pdf/07-senkoi-kensyu.pdf.）
- 本プログラムの病院群は総合大雄会病院を専門研修基幹施設としており、名古屋大学医学部付属病院（以下名古屋大学附属病院)、岐阜大学医学部附属病院（以下、岐阜大学附属病院)、一宮市立市民病院を専門研修連携施設として構成します。
- 本プログラムは「地域密着型専門研修プログラム」として尾張地域の麻酔科医の育成を目的に、地域医療に根ざした連携施設での研修を特徴とし、より専門性の高い医療を名古屋大学附属病院、岐阜大学附属病院にて研修することで地域医療から先進医療まで幅広い医療ニーズをカバーすることが可能となっています。経験症例は幅広く、必要症例をほぼ網羅しており、特に区域麻酔はエキスパートを擁して、密度の高い技術継承を行っています。また、共通して必要とする研修内容に加えて、専攻医各々の希望するキャリアプランに沿った研修カリキュラムに参加することを可能であり、麻酔専門医取得後はシームレスにサブスペシャリティとして集中治療専門医を目指すことができます。
- 本研修プログラムでは、尾張地域の地域医療構想を見据えた連携施設での研修を特徴としています。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 専攻医は4年間の研修期間の内、総合大雄会病院で原則として1年以上、連携施設で別に2年以上の研修を行います。
- 個々の専攻医の研修配属先は、専攻医の希望を十分に考慮して決定します。2年時以降は特殊な麻酔及びサブスペシャルティ領域の研修（集中治療・ペインクリニック・心臓血管麻酔など）を含む研修カリキュラムを達成できるように研修計画を立案していきます。

- 各研修施設での勤続期間は1カ年単位で計画し、基幹施設での研修は1年以上2年以内とします。専門性を高める研修とするために、プログラム内の各施設との連携と交流を深め、研究会などへの積極的な参加を図ります。
- 研修期間の内、連携施設での研修は単一連携施設で最長2年、複数の連携施設間のローテーションで3年以内を基本方針としています。
- 研修管理委員会はプログラムに参加するすべての専攻医がスムーズに経験目標を達成できるように、各々の研修内容・進行状況に配慮した研修ローテーションを立案します。
- 当直や待機業務明けには休みや業務軽減を図るなど、労務環境に配慮した研修ローテーションを実施します。

研修計画

年間ローテーション例

	1年目	2年目	3年目	4年目
A	一宮市立市民病院	一宮市立市民病院	総合大雄会病院	総合大雄会病院
	（麻酔管理基礎）	（麻酔管理、心臓血管麻酔）	（麻酔管理、集中治療）	（麻酔管理、集中治療）
B	総合大雄会病院	一宮市立市民病院	大学附属病院	総合大雄会病院
	（麻酔管理基礎）	（麻酔管理、心臓血管麻酔）	（高度先進医療、ペイン）	（麻酔管理、集中治療）
C	一宮市立市民病院	大学附属病院	総合大雄会病院	大学附属病院
	（麻酔管理基礎）	（高度先進医療、ペイン）	（麻酔管理、集中治療）	（研究等）
D	総合大雄会病院	一宮市立市民病院	大学附属病院	大学附属病院
	（麻酔管理基礎）	（麻酔管理、心臓血管麻酔）	（高度先進医療、ペイン）	（研究等）

週間予定

総合大雄会病院麻酔科ローテーション例

当直/待機の入りや明けは業務軽減しています。

	月	火	水	木	金	土	日
午前	麻酔	麻酔	麻酔	麻酔	術前診察	休み	休み
午後	麻酔	麻酔	麻酔	麻酔	緊急要員	休み	休み
当直					待機		

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

総合大雄会病院

研修実施責任者：道野　朋洋

専門研修指導医：高田　基志　（麻酔、集中治療）
道野　朋洋　（麻酔）
酢谷　朋子　（麻酔、集中治療）
酒井　規広　（麻酔、集中治療、 区域麻酔）
垂石　智重子　（麻酔、集中治療）
上松　友希　（麻酔、集中治療）
竹入　由賀　（麻酔）

専門医　：関　絢　（麻酔）

認定病院番号　395

特徴：地域医療支援病院

尾張西部医療圏の中核的な施設として、アクセス良好な立地を活かし、多数の患者を受け入れています。また、資格認定に必要な症例を幅広く経験できる環境を整えております。

患者にも医師にも居心地の良い環境を心がけており、区域麻酔を積極的に活用した管理を行いながら、神経ブロックに練達できるよう効果的な指導を提供しております。さらに、集中治療専門医も豊富に配置されており、希望に応じて集中治療の研修を受けることも可能です。

② 専門研修連携施設

名古屋大学医学部附属病院

研修実施責任者：秋山　浩一

専門研修指導医：秋山　浩一　（麻酔、心臓血管麻酔）
荒川　陽子　（麻酔）
柴田　康之　（麻酔、ペインクリニック、区域麻酔）
鈴木　章悟　（麻酔、集中治療）
浅野　市子　（麻酔、ペインクリニック）
川瀬　宏和　（麻酔、集中治療）
尾関　奏子　（麻酔）
園部　奨太　（麻酔、集中治療）
山根　光和　（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔）
安藤　貴宏　（麻酔）

赤根　亜希子　（麻酔）
平井　昂宏　（麻酔、集中治療）
佐藤　威仁　（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
米倉　寛　（麻酔、集中治療）
駒場　智美　（麻酔）
谷口　菜奈子　（麻酔）
藤井　祐　（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔）
天野　靖大　（麻酔）
三澤　知子　（麻酔）

麻酔科認定病院番号：38

特徴：

名古屋大学医学部附属病院麻酔科では、年間7,500件以上の麻酔管理症例を有しており、超低出生体重児から超高齢者まで、あらゆる年齢層・疾患に対応した高度な麻酔研修が可能です。

2025年度には、心臓血管外科727例、胸部外科537例、脳神経外科413例、帝王切開185例、6歳未満の小児472例の麻酔管理を実施しており、幅広い診療科にわたる多様な麻酔症例を経験できます。特に小児麻酔分野では、2013年に小児がん拠点病院に指定されて以降、小児外科、小児整形外科、小児脳神経外科などの小児がんに対する手術麻酔において豊富な実績を誇ります。2021年度からは小児へのDa Vinci手術も開始されており、高度な小児外科手術麻酔の研修も可能です。

産科麻酔では、母体合併症や胎児異常を有するハイリスク妊婦の帝王切開麻酔を多く担当しており、超緊急帝王切開では決定から30分以内の娩出を目標に、産科チームと密に連携しながら迅速な対応を実現しているほか、無痛分娩にも対応しています。

心臓血管外科領域では、CABGや弁置換術に加え、大動脈瘤などの大血管手術にも積極的に取り組んでいます。重症心不全センターを併設し、年間約10例の体内式左室補助人工心臓（LVAD）植え込み術を行っており、心移植適応患者への高度な麻酔管理経験を積むことが可能です。2022年度からは小児心臓外科手術が開始され、2025年度には約80例の小児心臓外科手術の麻酔を行い、小児循環器麻酔にも深く関わることができます。

また、当院では腎移植・肝移植・心移植に対応しており、2025年度からは肺移植も4例実施されました。移植医療の麻酔という、極めて専門性の高い領域においても実践的な経験を積むことができます。

そして、当院のもう一つの大きな特色が、麻酔科主導のClosed ICUである「外科系集中治療部（SICU）」の存在です。SICUでは2025年度には年間2,135例の重症患者を受け入れています。その約半数が術後症例ですが、残りの半数は敗血症、ARDS、肺炎、急性腎障害といった重症疾患であり、集中治療を要する重症病態に広く対応しています。麻酔科医が中心となって診療を行うClosed ICU体制をとっており、術後管理だけでなく、感染症・呼吸循環不全・多臓器不全などの集学的治療を通じて、高度な重症病態の管理スキルを身につけることができます。

麻酔科専攻医は3〜6ヶ月間のSICUローテートが可能で、集中治療専門医の取得を目指す場合には、必要に応じてさらに研修を継続することができます。多職種連携を重視したチーム医療が行われており、医師としての視野を広げながら、麻酔＋集中治療の二本柱でのキャリア形成が可能です。

さらに、週3回のペインクリニック外来および入院管理も行っており、慢性疼痛や神経ブロック、がん性疼痛に対する介入など、麻酔関連領域にも幅広く対応できる力を養うことができます。

名古屋大学医学部附属病院麻酔科は、手術麻酔にとどまらず、集中治療、移植医療、小児・産科・心臓外科麻酔、ペインクリニックといった多岐にわたるフィールドで質の高い教育と実践の場を提供しています。豊富な症例数と充実した指導体制のもと、将来の専門医・指導医を目指すために最適な研修環境を整えています。

岐阜大学附属病院

研修プログラム統括責任者：紙谷　義孝

専門研修指導医：	紙谷　義孝	（麻酔、区域麻酔）
	田辺　久美子	（麻酔、ペインクリニック）
	長瀬　清	（麻酔）
	操　奈美	（麻酔、ペインクリニック）
	中村　好美	（麻酔、心臓血管麻酔、ペインクリニック）
	中西　真有美	（麻酔）
	大沼　隆史	（麻酔）
	林　慶州	（麻酔、心臓血管麻酔）
	金　優	（麻酔、ペインクリニック）
	上野　美佳	（麻酔）
専門医：	田中　亜里沙	（麻酔）
	浦崎　有輝	（麻酔）
	畑中　奈津美	（麻酔）

足立　隆将　　（麻酔）
岩井　亮太　　（麻酔）
福田　光希　　（麻酔、小児麻酔）

認定病院番号：　73

特徴：

大学病院であるため研修指導医や専攻医が多数おり、スタッフと幅広く意交換をすることができます。ペインクリニックのローテーションが可能です。

<u>一宮市立市民病院</u>

研修実施責任者：　加藤 規子

専門研修指導医：　加藤 規子　　（麻酔、心臓麻酔）
井上 麻由　　（麻酔）
片岡 幸子　　（麻酔）
大崎 友宏　　（麻酔）
民井 あかね　　（麻酔、心臓麻酔）
山田　美咲　　（麻酔）
瀧　　友紀　　（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1506

施設の特徴：

尾張西部医療圏の中核病院として、幅広い分野の症例を経験可能です. 心臓血管麻酔専門医認定施設で資格取得を支援しています. また最近は脳外科や循環器科の手術室外麻酔に積極的に取り組んでいます。ワークライフバランスを実践し、快適な職場環境の実現に取り組んでいます。

5. <u>専攻医の採用と問い合わせ先</u>

①　採用方法

日本専門医機構に定められた方法で期限までに（2026 年 10 月ごろを予定）研修プログラムに応募してください。採用決定は研修管理委員会が行います。

②　問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能です。

総合大雄会病院　麻酔科　道野 朋洋
〒491-8551 愛知県一宮市桜一丁目 9 番 9 号
TEL　 0586-72-1211（代）
E-mail: dykmasui@gmail。com

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4 年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、地域住民の健康と福祉の増進に寄与できるようになります。

具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の 4 つの資質を修得した医師となります。

1）麻酔科領域および麻酔科関連領域における十分な専門知識と技能
2）刻々と変化する臨床現場における適切な臨床判断能力・問題解決能力
3）医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度・習慣
4） 常に進歩する医療・医学に則し、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

地域の皆様に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に、別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成します。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医として十分な知識・技能・態度を備えるために、別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた、経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動に関する経験目標を達成します。

このうち経験症例に関しては、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できませんが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において、卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限って、専門研修の経験症例数として算定することができます。

7. 専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた 1）臨床現場での学習、2）臨床現場を離れた学習、3）自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識・技能・態度を修得します。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医の年次ごとの到達目標

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次ごとの知識・技能・態度の到達目標を達成します。

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA1～2 度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことを目指します。

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能・知識をさらに発展させ、全身状態の悪い ASA3 度の患者の周術期管理や、ASA1～2 度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことを目指します。

専門研修 3 年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことを目標とします。

また、希望に応じてペインクリニック、集中治療、救急医療などの関連領域の臨床にも携わり、知識・技能を修得します。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができるようになります。

基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができますが、難易度の高い症例や緊急時には、適切に上級医に相談することを学び、患者の安全を守ることを第一に考えます。

また、希望者は上級医とともに臨床研究にも携わっていくことを目指します。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録

専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録します。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡されます。

- 専門研修指導医による評価とフィードバック

  研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的に評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットを用いてフィードバックを行います。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させます。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修 4 年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識 ②専門技能 ③医師として備えるべき学問的姿勢・倫理性・社会性・適性を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定します。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標および経験すべき症例数を達成し、知識・技能・態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件となります。研修プログラム管理委員会では、各施設の研修実施責任者が集まり、研修期間中に行われた形成的評価および総括的評価をもとに修了判定を行います。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出します。評価を行ったことで専攻医が不利益を被らないよう、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないよう配慮する義務があります。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づき、すべての所属専攻医に対して適切な研修を担保するため、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有します。

12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行います。
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 か月以内の休止は、1 回までは研修期間に含まれます。

- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して 2 年まで休止を認めます。休止期間は研修期間に含まれません。
- 研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して 2 年を超えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなします。
- 2 年を超えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められません。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすため、特例として 2 年以上の休止を認めます。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構麻酔科領域研修委員会へ通知します。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会が専攻医に対し、中断を勧告することができます。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができます。その際は、移動元・移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要があります。
- 麻酔科領域研修委員会は、移動後も当該専攻医が到達目標を達成できる見込みがある場合にのみ、移動を認めます。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムは名古屋大学附属病院、岐阜大学附属病院、一宮市立市民病院と連携しており、幅広く症例経験を積むことができます。一方で、集約化された高度先端医療施設だけでなく、人員や設備など医療資源が限られた地域においても安全な手術の施行に寄与すべく、尾張地域の中小規模の研修連携施設において適切な知識と技量を培い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解することは必要不可欠と考えます。

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。年次評価を行う際、専攻医

および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。